守山企業景況調査報告書

（第 44 回）

令和 2 年 7 月～令和 2 年 9 月期　実　績

令和 2 年 10 月～令和 2 年 12 月期　見通し

守山企業景況調査について

（令和２年７月～令和２年９月期）

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業69社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	14	70.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	9	75.0%
サービス業	19	14	73.7%
卸売業	5	4	80.0%
合　計	69	52	75.4%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和２年７月～令和２年９月、見通しを令和２年10月～令和２年12月とし、調査時点は令和２年10月31日とした。

4, 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion　Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は３カ月前との比較である。

「取引の問い合せ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和2年7月～令和2年9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和2年7月～9月期の調査結果では、業況、資金繰りの2指標は上昇し、売上高､採算の2指標の数値が低下した。

＜業況＞

業況DIは▲45.1で前回調査の▲51.9から6.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲42.9（前回調査比+21.4）、製造業▲72.7（前回調査比▲22.7）、建設業▲11.1（前回調査比+18.9）、サービス業▲53.8（前回調査比+3.3）、卸売業▲25.0（前回調査比+25.0）と製造業以外は上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲40.4である。

＜売上高＞

売上高DIは▲54.9で前回調査の▲46.2から8.7ポイント低下した。業種別では、小売業▲50.0（前回調査比+14.3）、製造業▲72.7（前回調査比▲72.7）、建設業0.0（前回調査比+60.0）、サービス業▲84.6（前回調査比▲27.5）、卸売業▲50.0（前回調査比▲25.0）であり、小売業、建設業が上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲52.9である。

＜採算（経常利益）＞

採算（経常利益）DIは▲48.1で前回調査の▲46.2より1.9ポイント低下した。業種別では、小売業▲42.9（前回調査比+21.4）、製造業▲63.6（前回調査比▲33.6）、建設業▲11.1（前回調査比+18.9）、サービス業▲64.3（前回調査比▲14.3）、卸売業▲50.0（前回調査比±0.0）で小売業と建設業が上昇した。

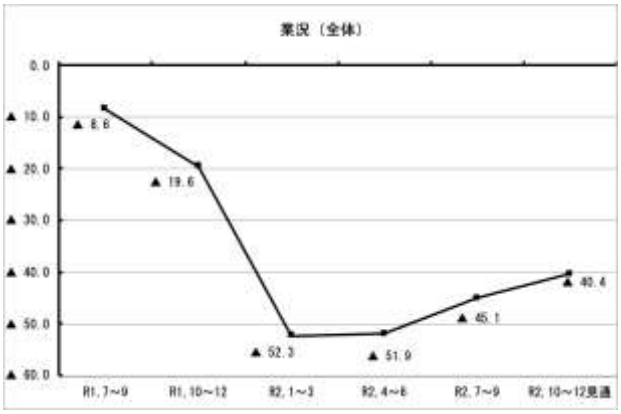
10月～12月期見通しは全体で▲45.1である。

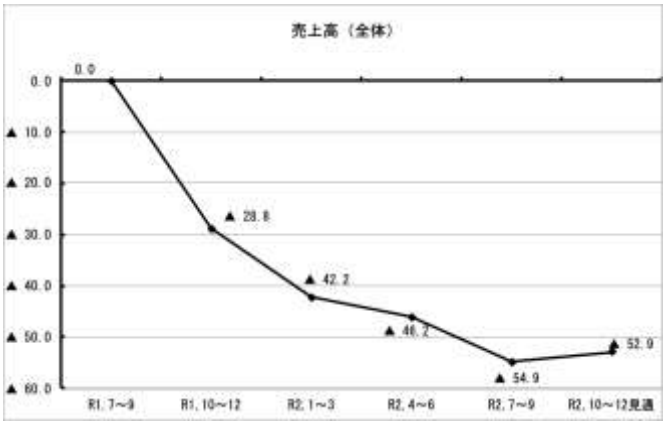
＜資金繰り＞

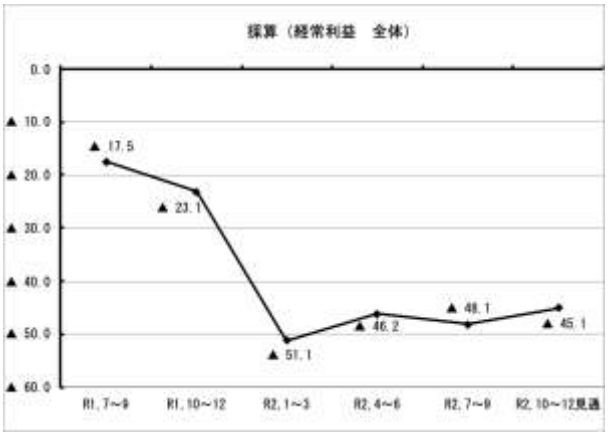
資金繰りDIは▲16.7で前回調査の▲29.4から12.7ポイント上昇した。業種別では小売業▲28.6（前回調査比+21.4）、製造業0.0（前回調査比+22.2）、建設業▲12.5（前回調査比▲12.5）、サービス業▲25.0（前回調査比+17.9）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で小売業、製造業、サービス業が上昇した。

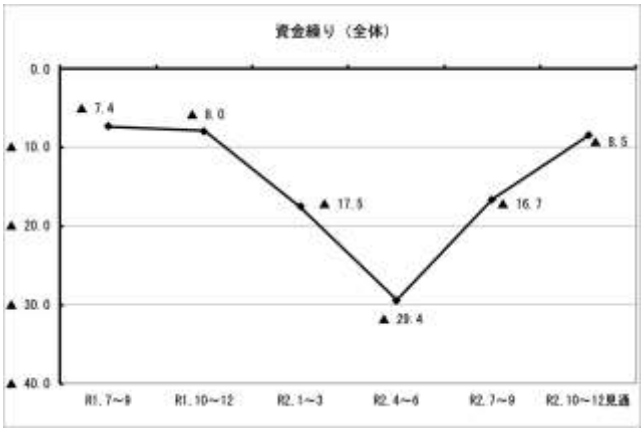
10月～12月期見通しは全体で▲8.5である。

＜コロナウイルスの影響などの意見＞
・まだまだ先が見通せない。
・売上に対して人権比率が上昇していて若干従業員が過剰気味だと感じるようになってきた。雇用調整助成金を活用しているが、特例措置が切れた後のことが心配。
・店も商店街も人の動きが少なく元気がない。GO-TO 商店街でちょっとは動きが出るかと期待。









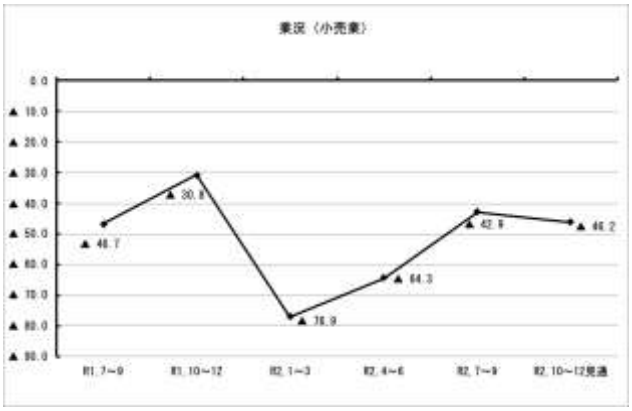
小売業

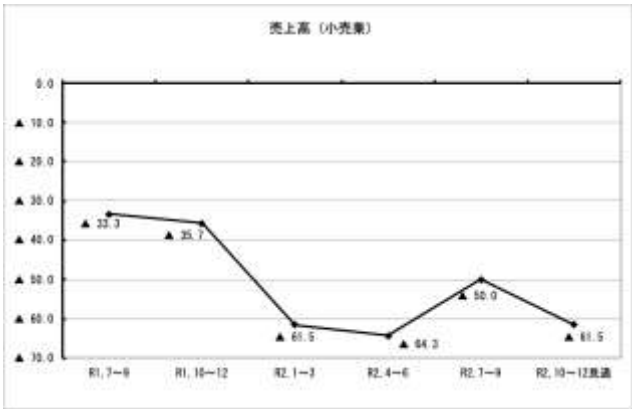
小売業の業況DIは▲42.9で前回調査に比べて21.4ポイント上昇した。これで２四半期連続の上昇であり、1年前の令和1年7月～9月期よりも高い値となった。10月～12月期見通しは▲46.2で少し下げている。

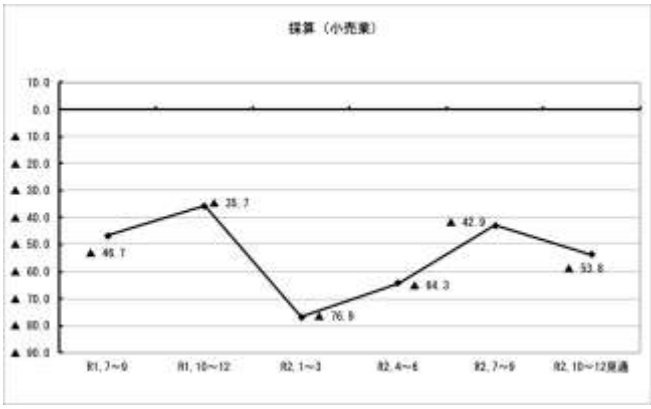
売上高DIは▲50.0で前回調査に比べて14.3ポイント上昇した。前回調査まで2四半期連続で低下していたが今回調査では上昇に転じている。しかし、10月～12月期見通しは▲61.5と暗い値になっている。

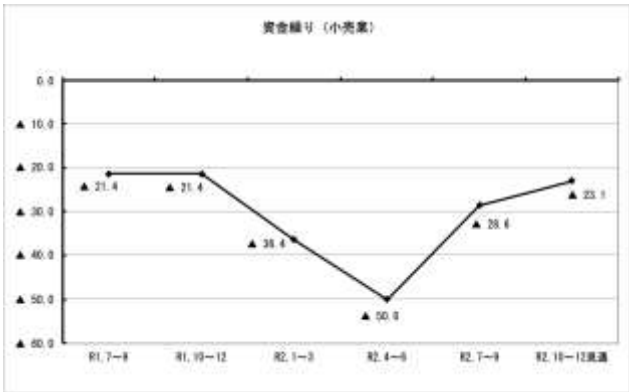
採算（経常利益）DIは▲42.9で前回調査より21.4ポイント上昇した。これも2四半期連続での上昇である。業況と同じく、令和1年7月～9月期よりも高い値となった。10月～12月期見通しは▲53.8と明るくはない。

資金繰りDIは▲28.6で前回調査に比べて21.4ポイント上昇した。資金繰りは低下傾向のまま来ていたが、今回調査でようやく上昇した。10月～12月期見通しは▲23.1でさらに上昇している。









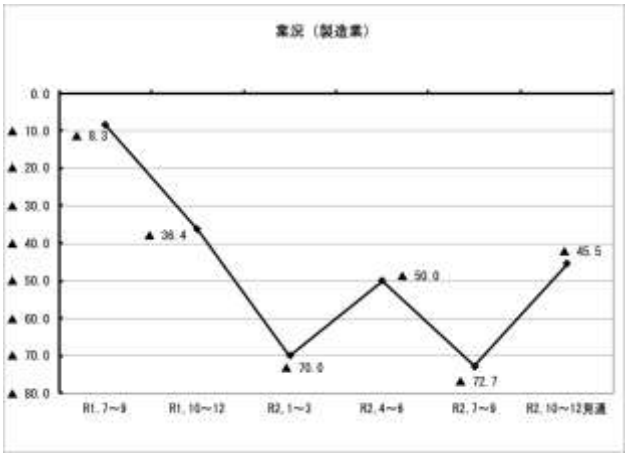
製造業

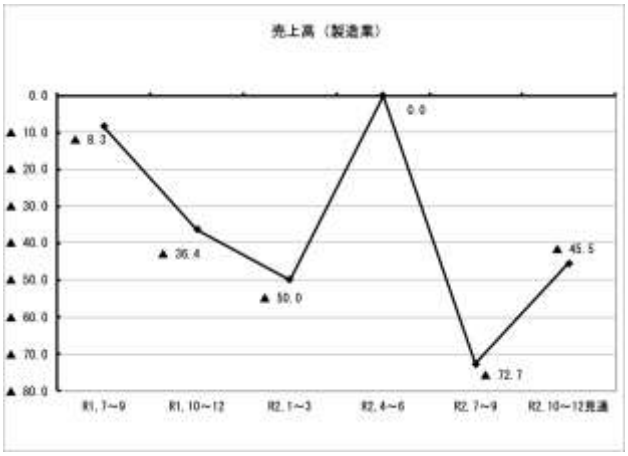
製造業の業況DIは▲72.7と前回調査に比べて22.7ポイント低下した。前回調査で少し持ち直したかに見えたが、今回調査では逆に数値が悪化した。10月～12月期見通しは▲45.5と持ち直しの傾向が見られる。

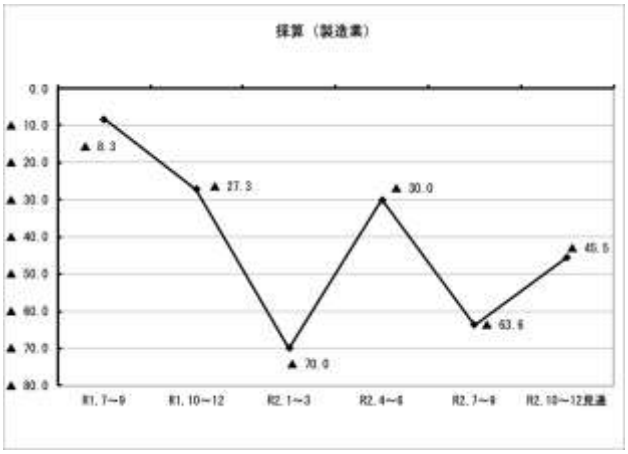
売上高DIは▲72.7で前回調査と較べて72.7ポイント低下した。業況と同じく、前回調査で持ち直したかに見えたが、今回調査では大幅に低下している。10月～12月期見通しは▲45.5で少し改善する見通しである。

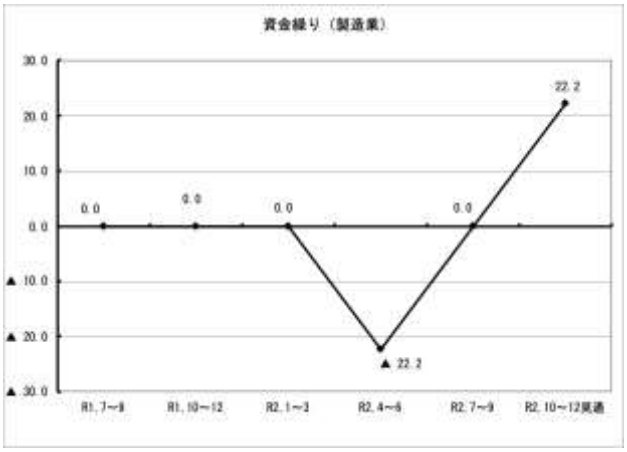
採算DIは▲63.6で前回調査より33.6ポイント低下した。業況、売上高と同じく前回調査で持ち直しの気配があったが、今回調査では大きく値が下っている。10月～12月期見通しは▲45.5で改善する見通しである。

資金繰りDIは0.0で前回調査の▲22.2から22.2ポイント上昇した。前回調査で▲22.2まで下げたが今回調査では0.0まで戻しており、資金繰りは安定してきたようである。10月～12月期見通しでも22.2と良化している。









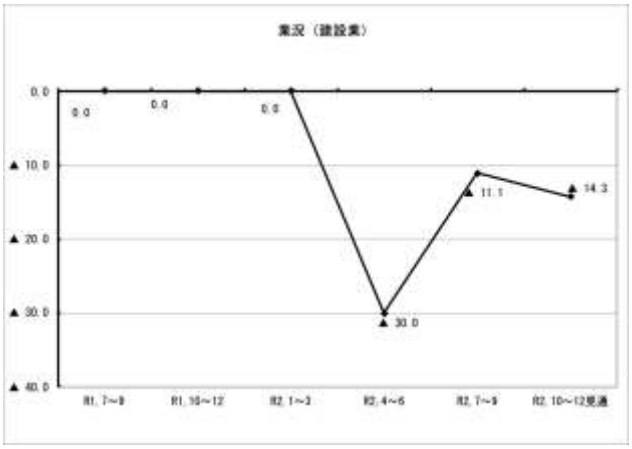
建設業

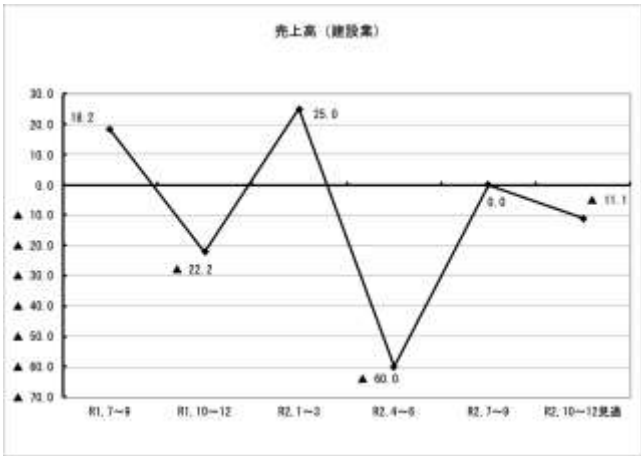
建設業の業況DIは▲11.1であり前回調査から18.9ポイント上昇した。前回調査で30ポイントの低下となったが今回調査では改善している。10月～12月期見通しは▲14.3と微減である。

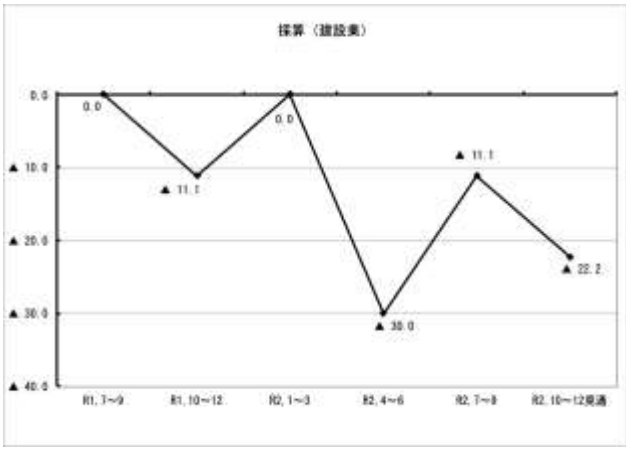
売上高DIは0.0で前回調査より60ポイント上昇した。前回調査の▲60.0から大きな上昇である。最近の傾向を見る限りでは前回調査の▲60.0が特殊な数値であった可能性がある。10月～12月期見通しは▲11.1で少し落ちている。

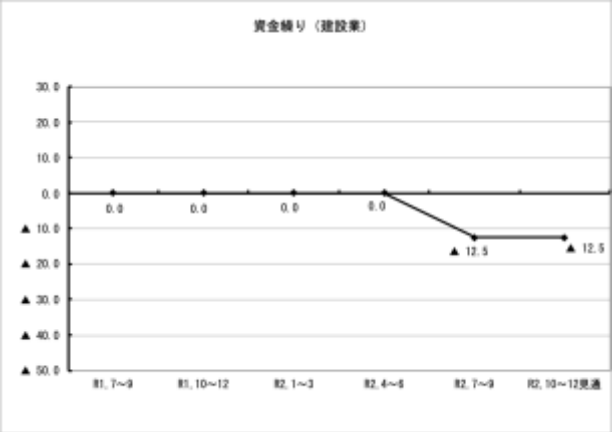
採算DIは▲11.1で前回調査より18.9ポイント上昇した。建設業の採算DIは調査ごとに上下しており、今回は上昇の順であるのでその傾向通りなのかも知れない。10月～12月期見通しも▲22.2で傾向の通りに低下している。。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査より12.5ポイント低下している。過去5回の調査で0.0と安定して動きを見せていたが、今回調査では低下している。10月～12月期見通しも▲12.5なので資金繰りの安定度が落ちてきたのかも知れない。









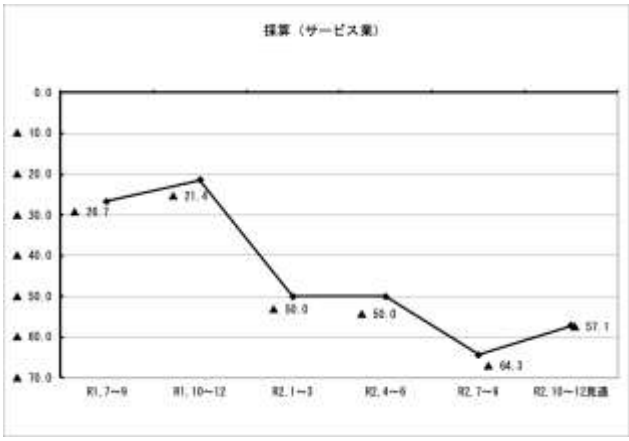
サービス業

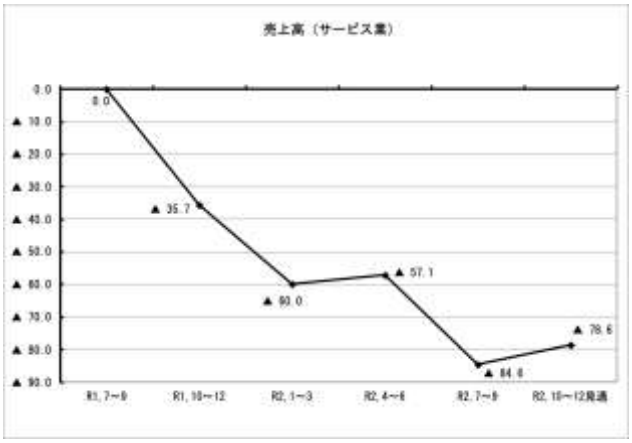
サービス業の業況DIは▲53.8で前回調査より3.3ポイント上昇した。これで３四半期連続で▲50以下の値であり、かなり厳しいと言わざるを得ない。10月～12月期見通しも▲50.0でこのままの厳しさが予想されている。

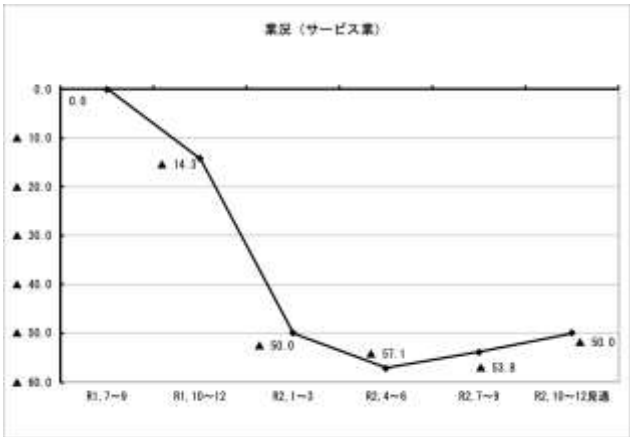
売上高DIは▲84.6で前回調査より27.5ポイント低下した。回答の中身を見ると、売上高が上昇したとの回答はなく、ほとんどの回答が低下となっている。10月～12月期見通しも▲78.6で今回調査と同じような値である。

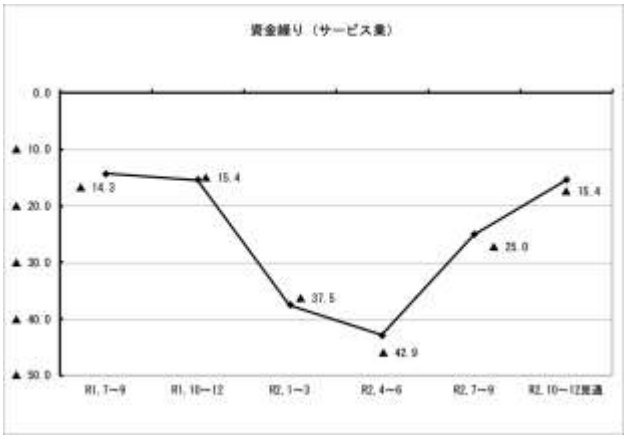
採算DIは▲64.3で前回調査より14.3ポイント低下した。採算に関しても改善の兆しは見えなかった。ただ、10月～12月期見通しは▲57.1と今回実績よりは改善しそうな値が出ている。

資金繰りDIは▲25.0で前回調査より17.9ポイント上昇した。10月～12月期見通しの▲15.4と合わせてみると、今回調査時点で資金繰りは改善してきたように見える。









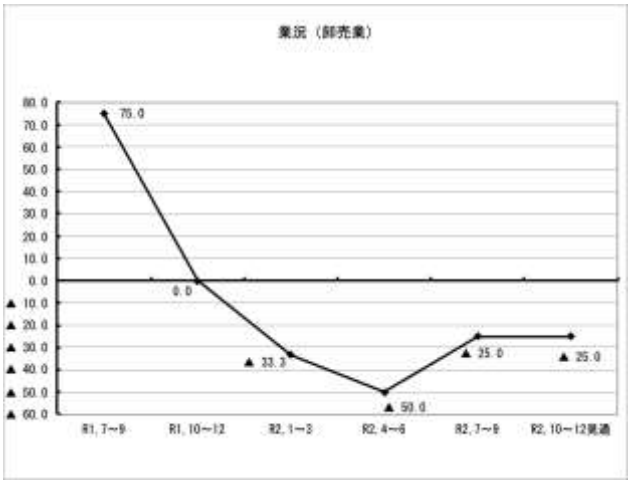
卸売業

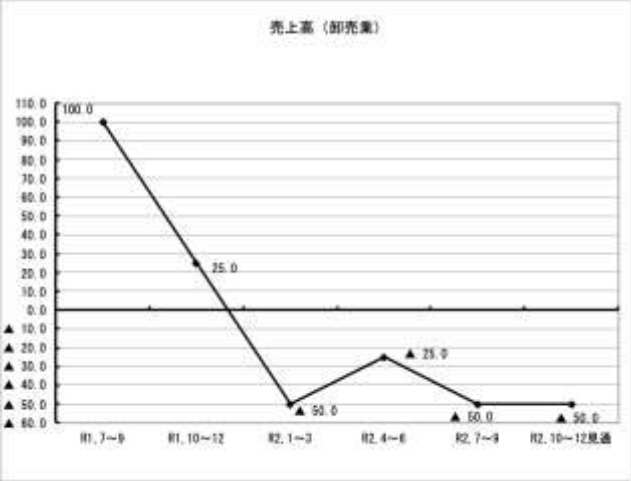
卸売業の業況DIは▲25.0となり前回調査と比べて25ポイント上昇した。2四半期連続で低下していたが今回調査では上昇に転じている。10月～12月期見通しも▲25.0と今回調査実績と同数値であり低下傾向から変わりつつあるかも知れない。

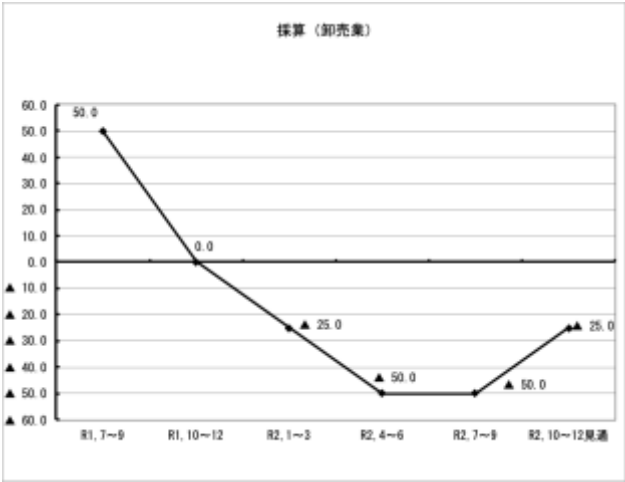
売上高DIは▲50.0で前回調査より25ポイント低下した。▲50.0、▲25.0、▲50.0とジグザグに動いてきていたが、10月～12月期見通しは▲50.0で売上高は低下のまま推移してしまうのかも知れない。

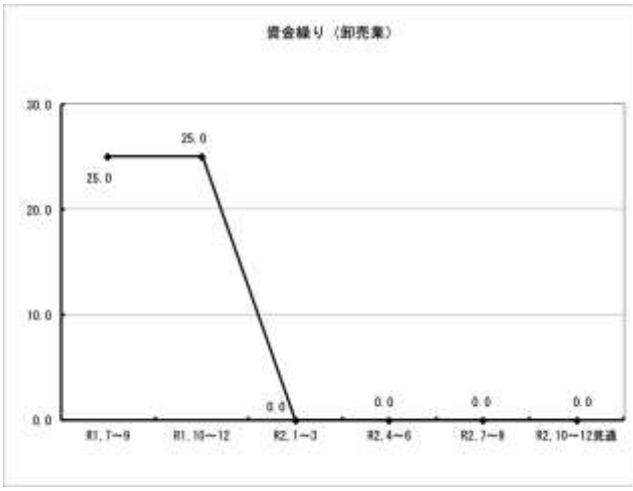
採算DIは▲50.0で前回調査と同じ数値であった。令和2年に入ってからマイナスのまま３四半期が過ぎた。10月～12月期見通しも▲25.0で見通し通りになれば1年間マイナスのままということになる。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。卸売業の資金繰りは安定的な動きを見せている。10月～12月期見通しも0.0なので､安定していると考えられる。





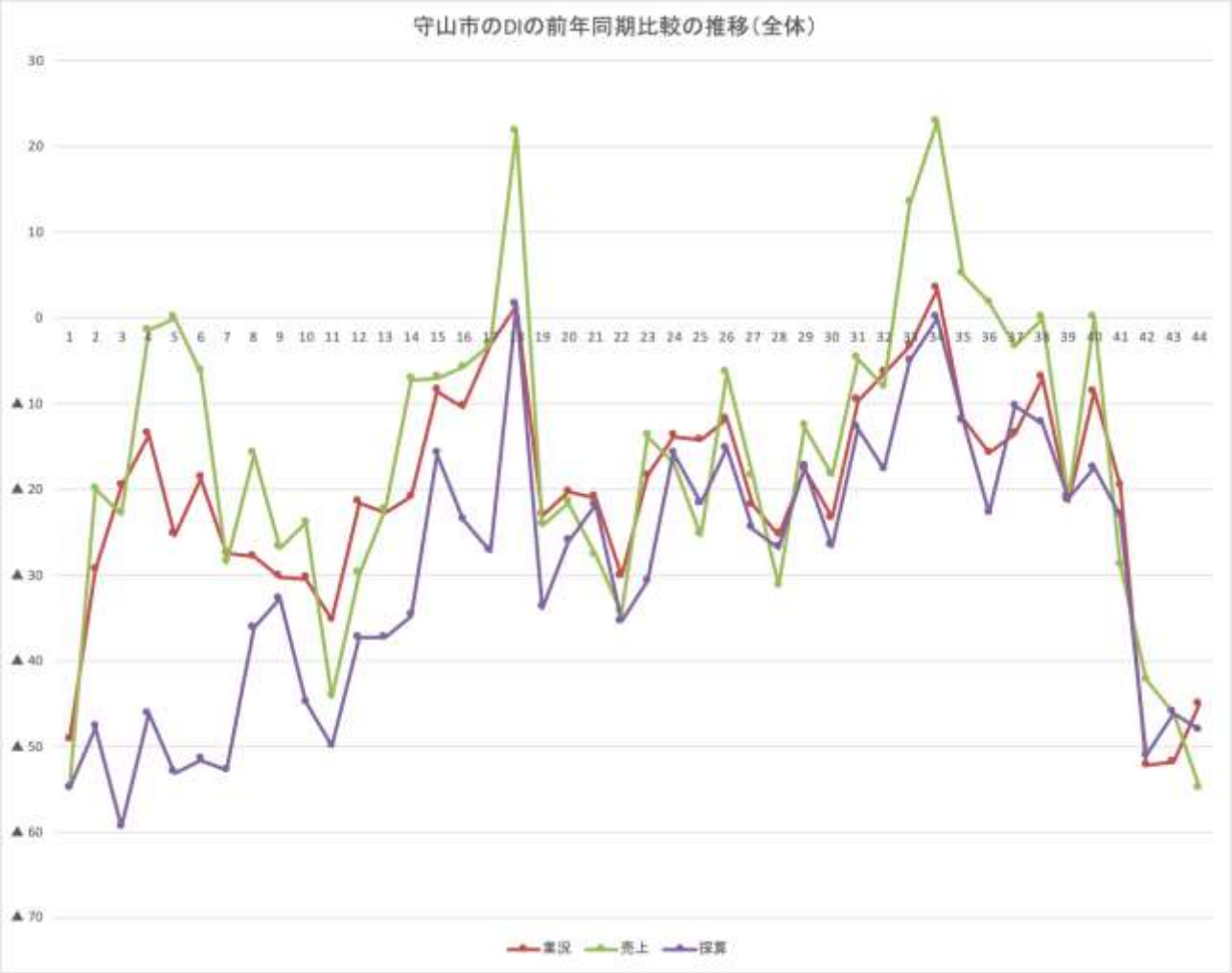




DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全　体	▲ 45.1	▲ 40.4	▲ 54.9	▲ 52.9	▲ 48.1	▲ 45.1
小売業	▲ 42.9	▲ 46.2	▲ 50.0	▲ 61.5	▲ 42.9	▲ 53.8
製造業	▲ 72.7	▲ 45.5	▲ 72.7	▲ 45.5	▲ 63.6	▲ 45.5
建設業	▲ 11.1	▲ 14.3	0.0	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2
サービス業	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 84.6	▲ 78.6	▲ 64.3	▲ 57.1
卸売業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合せ		従業員	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全　体	▲ 9.6	▲ 13.5	▲ 50.0	▲ 38.0	▲ 10.0	▲ 4.2
小売業	▲ 21.4	▲ 28.6	▲ 58.3	▲ 58.3	▲ 8.3	▲ 9.1
製造業	0.0	▲ 9.1	▲ 63.6	▲ 45.5	9.1	9.1
建設業	11.1	11.1	▲ 11.1	0.0	0.0	▲ 12.5
サービス業	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 64.3	▲ 57.1	▲ 21.4	▲ 7.1
卸売業	25.0	25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全　体	▲ 16.7	▲ 8.5	12.5	7.5	10.3	7.7
小売業	▲ 28.6	▲ 23.1	0.0	▲ 12.5	0.0	0.0
製造業	0.0	22.2	10.0	10.0	10.0	10.0
建設業	▲ 12.5	▲ 12.5	12.5	12.5	12.5	12.5
サービス業	▲ 25.0	▲ 15.4	27.3	18.2	20.0	10.0
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向